

三鷹市立第七中学校 令和4年度【理】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○実験・観察に全生徒が参加するという課題では、一人一人が個別に実験・観察を行う、時間で区切るなどして確実に全員が実験器具に触れる機会を設けるなどの工夫をすることで、全生徒を実験・観察に参加させることができた。</p> <p>○授業内で、個人で考える時間を確保することで、一人一人が自分の考えをもった状態で話し合い活動に向かわせることができた。</p>	<p>○「授業の始めにその日の目標が分かりやすい」という問いに対し、すべての生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>○「授業のスピードはちょうどよい」という問いに対し、すべての生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>○「自分で考えたり、発表したりする場面がある」という問いに対し、ほとんどの生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>○「質問への対応が丁寧である」という問いに対し、ほとんどの生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>○「評価の付け方についてきちんとした説明があり納得できる」という問いに対し、ほとんどの生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>○授業内での発問に対する反応がよく、自分の考えを積極的に発表できる生徒が多い。</p> <p>○定期考査などから、知識の定着が不十分な生徒が一定数見られる。</p>	<p>○定期考査の結果から、学習内容の定着度合いに不安のある生徒がいることが考えられる。授業の中で、要点は繰り返し説明して強調したり、丁寧な説明を心がけたりして、基礎的な知識を確実に定着させる。</p> <p>◎第1学年ということもあり、実験・観察の考察を授業内で説明しながら行うことが多かった。これからは授業中にしっかりと考察のポイントを説明し、考察自体は家庭学習にすることで、家庭でも学習内容を振り返る機会を設け、より一層の学習内容の定着を図る。</p>
第2学年	<p>○授業内に、生徒が個人で自分の考えをまとめ、ノートに記述する時間を多く設けたことにより、個人で考えを深めながら話し合い活動に入るといった流れを確立することができた。</p> <p>○実験結果を基に考察を書かせるとき、あらかじめ考察させたい点を生徒に伝えることで、考えるポイントが明確になり、考察をより効果的なものにする事ができた。</p>	<p>○「授業の始めにその日の目標が分かりやすい」という質問に対し、否定的な回答をした生徒が一定数いるので、その授業の目標をより分かりやすく伝えることが課題である。</p> <p>○「先生の声は聞き取りやすい」という問いに対し、ほとんどの生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>○「板書は見やすい」という問いに対し、ほとんどの生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>○「自分で考えたり、発表したりする場面がある」という問いに対し、ほとんどの生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>○レポートへの取り組みから、実験結果をもとに考えることがよくできている。生徒一人一人が思考する活動に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>◎「考えたり調べたりしたことを文章にまとめる」という観点から、各授業ごとに振り返りを記入させる。授業で分かったことをまとめさせたり、授業を受けて気になったことを自分で調べて書かせたりして、学習内容の定着を図る。また、定期的に添削をし、フィードバックをすることで、理解状況に応じた指導を行う。</p> <p>◎考察を家庭での宿題とすることで、家庭でも実験を振り返り、定着を図ることができた。これからは、予想を家庭学習で行わせるなど、これまで学んだことをつなげて考える力の育成にも取り組んでいく。</p> <p>○実験方法などの資料提示にタブレットを活用することができた。今後は、共有ファイルに実験結果や考察を書き込ませるなど、結果や考えを形に残るように共有する工夫を、タブレットを用いて行っていきたい。</p>
第3学年	<p>○実験・観察の結果を基に授業を進めることができた。</p> <p>○発問に対し挙手で発言させる形だと発言者が固定されてしまっていたが、発問に対する回答をノートに書かせることで、すべての生徒が主体的に考え、自らの考えをアウトプットすることができた。</p> <p>○既習事項から新出事項に関連させて考えることが引き続き課題である。実験前の仮説立案でも多くの生徒が根拠のない考えを書いてしまっていた。</p>	<p>○生徒の多くが、授業の初めにその授業の目標が分かったと述べており、多くの生徒が目標を理解して毎回の授業に臨むことができています。</p> <p>○「授業のスピードはちょうどいい」という問いに対し、肯定的な回答の方が多いものの、どちらかといえばちょうどいいという回答が多かった。潜在的に授業スピードがはやいと感じる生徒が一定数いるのではないかと推測できる。</p> <p>○「自分で考えたり、発表したりする場面がある」という問いに対し否定的な回答がほとんどないので、授業者の意図通りに生徒が考える授業が行えていたと判断する。</p> <p>○実験・観察前の予想を、これまでの学習に基づくものではなく、直感で考えてしまっている生徒が多い。</p>	<p>○予想を書かせるとき、これまでの学習との関連をよりいねいに説明し、学んできたことを生かして新たな気付きを得るというサイクルを構築する。</p> <p>◎「考えたり調べたりしたことを文章にまとめる」という観点から、日々の授業の振り返りをいねいに行わせ、授業で分かったことと分らなかったことを明確にさせる。</p> <p>○単元の終わりにまとめの時間をつくり、重要事項の復習を行う。それにより、授業スピードに不安を感じている生徒に安心感を与える。</p> <p>○板書量が多く、黒板が見にくくなりがちなので、穴埋め式のプリントを用いるなどより要点を絞った板書になるように工夫する。</p>